

日本産業教育学会

第 43 回大会プログラム
研究発表概要集

2002年10月27日(日)～10月28日(月)
会場：徳島大学 大学開放実践センター

1. 交通案内・会場案内

■ 国内各地から会場までの交通案内

[飛行機利用のルート]

徳島に入るには、最もよく利用されるのが飛行機利用のルートです。東京羽田空港からでも1時間程度で徳島空港に到着できます。1日7便が発着します。ここからバス20分で徳島駅に到着できます。途中、「徳島大学前」を通りますし、下車もできます。この他に名古屋空港、福岡空港からも発着しています。

[高速バス利用のルート]

近畿圏と徳島を結ぶ高速バスが発達しています。どれも便数も多くあります。特に、大阪、神戸からの便は頻繁にあります。東京・品川から1便あり、最も安く旅行できます。新幹線で大阪、京都、新神戸に出ればそこからは高速バスが出発しています。2時間～3時間程度で到着できます。



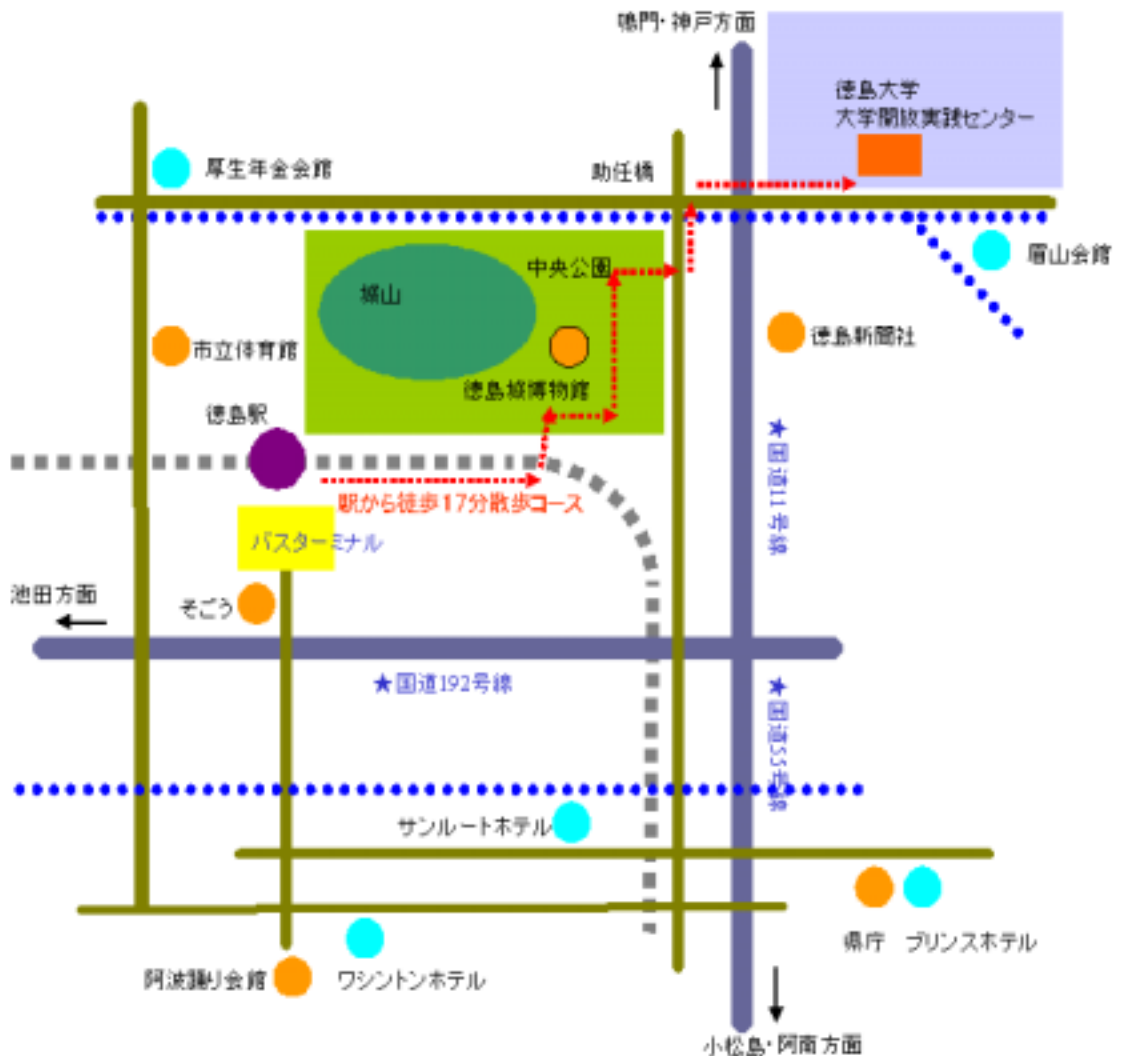
[新幹線・JR 特急利用ルート]

山陽新幹線の岡山から JR 特急で2時間10分程度で徳島に到着します。新大阪から岡山まで44分程度ですからこのルートも便利です。岡山から瀬戸大橋線マリライナーに乗り換え、高松発徳島行「特急うずしお」に乗るか、岡山発徳島行き「特急うずしお」に乗れば2時間10分程度で到着します。

[フェリー利用ルート]

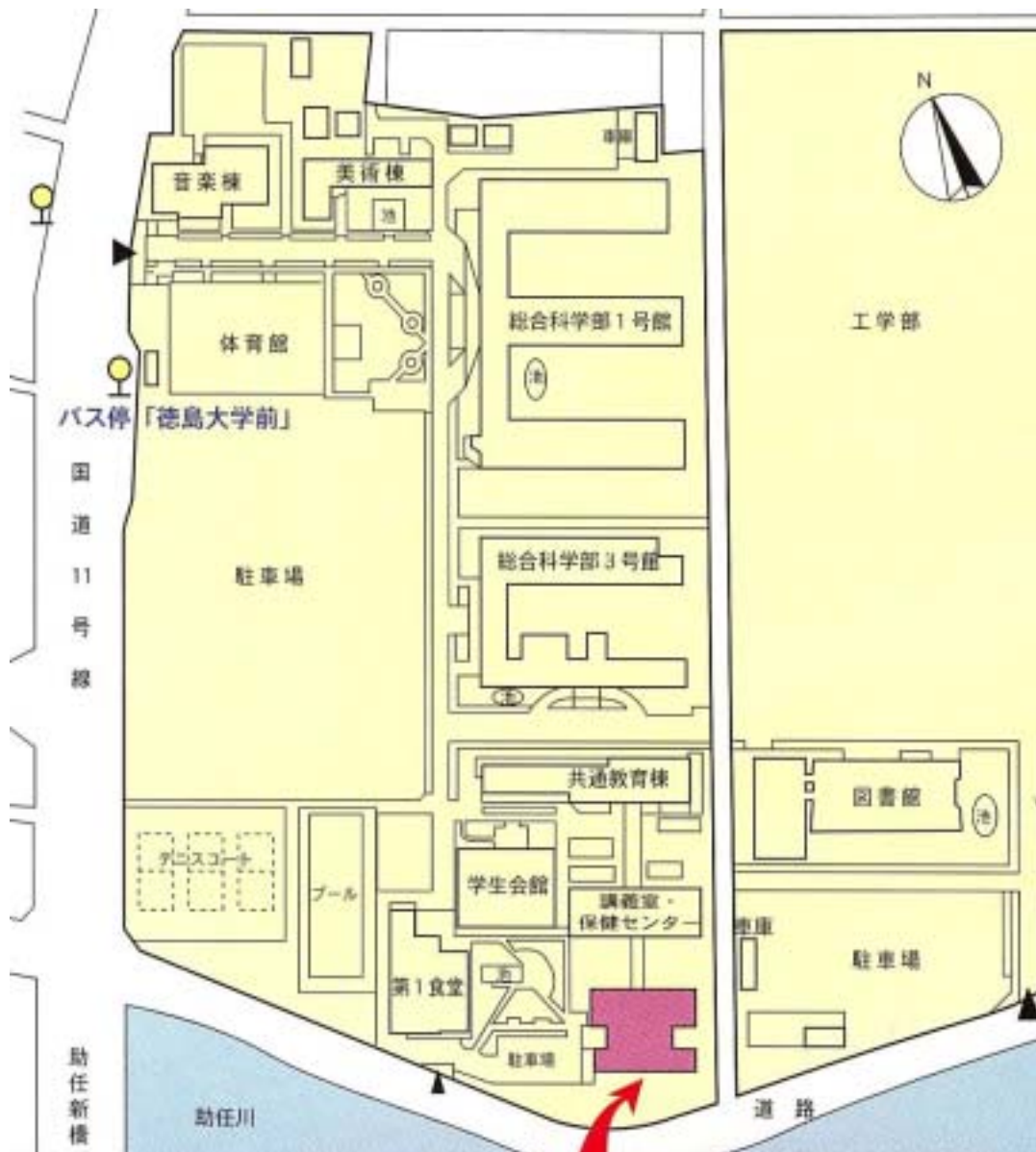
和歌山港まで南海電鉄、JR で乗車し、ここから徳島行きのフェリーが出ています。所要時間2時間で、徳島港からはバスで徳島駅に出ます。大阪難波から和歌山港までは60分、関空からは40分で移動できる。

- 徳島駅からは下の地図で徒歩 17 分、徳島駅よりタクシー600～800 円程度、5 分です。



* [徒歩ルートのご案内] 徳島駅を背中にして、左手に歩きます。線路沿いに歩いて行きますと、跨線橋が見えてきます。同時に「徳島市立徳島城博物館」の案内看板もありますので、この橋をわたります。橋をわたると徳島城博物館が正面に見えてきます。これを右手方向にさらに歩きますと城の門があります。これをわたって道路沿いに歩いても良いのですが、橋を渡らずに少し左手に行き、すぐ右に折れると中央公園です。しばらく行きますとバラ園、洋風庭園が右に、左に噴水と池が見えてきます。これをまっすぐ行きますと駐車場や売店があります。ここで、右に出て、道路沿いに川まで行きます。橋を渡って右方向に 100m程度で国道にでます。この信号を渡ると左が徳島大学のキャンパスです。川沿いに 50m程度歩くと大学開放実践センターの正門が見えてきます。これを入れれば正面がセンター建物です。

■ 大会会場の案内図



* 大学開放実践センター専用の門がありますのでそこからお入りください。タクシーの場合は「工学部正門の手前100m」にある門と言えます。「産業教育学会大会」の看板が出ていますのでこれを入るよう指示してください。

2.大会日程

・開催期間：2002年10月27日(日)～10月28日(月)

	9:00	9:30	12:00	13:00	17:00	18:00	19:30
10/27	受付	ラウンド・ テーブル (A会場・B会場 C会場)	理事会 (C会場)	自由研究発表 第1分科会(A会場) 第2分科会(B会場)	総会 (A会場)	懇親会 (工業会館)	
10/28	受付	シンポジウム (工業会館)	移動・ 昼食	施設見学 (大塚製薬工場及び 能力開発研究所)	市内ツアー (阿波踊り会館)		
10/29	オプション・ツアー(大塚国際美術館・渦の道・鳴門公園)						

・場所：徳島大学 大学開放実践センター 〒770-8502 徳島県徳島市南常三島町 1-1
徳島大学南常三島(みなみじょうさんじま)キャンパス
(問合せ・連絡先= 電話・FAX:088-656-7283)

・オプションツアー(10月29日)

8:50 徳島駅前バス乗り場に集合(徳島バス 徳島駅前発「鳴門公園行き」)
9:00 発に乗車予定。

9:00 - 10:00 移動

10:00～大塚国際美術館・渦の道・鳴門公園

3.大会参加申し込みの仕方と受付

- 事前申し込みの方はご自分のカードを受け取って資料、領収書をお受け取りください。
- 当日申し込みの方はお名前と所属をカードに書いて受付でお支払いください。
- 大会参加費

当日申込者(会員) 3500円、(一般) 4000円、(学生) 1000円 事前申込者(会員) 3000円
--

- 懇親会費

当日申込者(会員・一般) 4000円、(学生) 2000円 事前申込者(会員) 3500円
--

- お弁当引換券を第1日の9時00分～10時30分に販売します。
- なお、10月27日「ラウンドテーブル」及び10月28日「シンポジウム」については一般公開です。こちらだけの参加者の方は受付でその旨を告げて参加者名簿に記入し、名札にも記入して会場へどうぞ。

4.「自由研究発表」の発表者の方へ

- 発表当日までに講演要旨(A4版両面刷1枚)を100部程度を各自で印刷して持参ください。この他に配付資料がある場合も100部程度をご用意ください。会場入り口にテーブルを配置しますので、適宜、並べてください。

- 発表は 15 分、質疑応答は 5 分です。パソコンのモニターで残り時間を掲示します。
- パソコンとプロジェクターによる発表の方は、早めに発表会場でチェックをしておくようお願いいたします。会場係がお手伝いします。

5.「自由研究発表」座長の方へ

- 各分科会の進行に際しましては会場係とお打ち合わせの上、進行をお願いいたします。
- 発表は 15 分、質疑応答は 5 分で、パソコンのモニターで残り時間を掲示します。

6.「ラウンドテーブル」責任者の方へ

- 発表当日までにラウンドテーブルに必要な配付資料などを 100 部程度を各自で印刷して持参ください。当日、配布します。
- 研究討議の運営につきましては各テーブルの責任者にお任せします。なお、定刻までに完了できるようご協力ください。
- パソコンや、OHP などのプレゼンテーション機器を使用する場合には会場係までお申し出ください。会場に用意してあります。

7.オプションツアーのご案内

- オプションツアーとして「大塚国際美術館」と鳴門の「渦の道」見学コースを 10 月 29 日火曜日に行きます。こちらの参加申し込みの締め切りは第 1 日の受付時です。この時にお申し出ください。
- 集合は午前 8 時 50 分、JR 徳島駅前の徳島バス 1 番乗り場から乗車します。「鳴門公園行き」9 時 00 分発に乗車の予定です。参加者は入館料+渦の道通行料 3500 円 + バス代 690 円 (片道) が別途かかります。所要時間はバスが 50 分程度、見学他が 6 時間程度のツアーです。昼食は美術館の中でとることができます。帰路は高速バス「鳴門公園口」から乗車して新神戸、三宮へ 1 時間 30 分程度で出られます。飛行機利用の方は空港まで、バスで 40 分程度、タクシー 30 分程度です。美術館入り口までご案内し、帰路は参加者それぞれの時間に合わせて帰ることになります。美術館正面の案内係がバス時刻他をご案内しています。大会事務局では美術館玄関までお送りします。

8.宿泊案内

- 当日は大きなイベントがあり、満室のホテルもあります。大会実行委員会では 10 月 26 日と 10 月 27 日について下記の 3 つのホテルのシングルを 110 室、確保しました。予約時に「産業教育学会大会に参加」と申し出ますと、割引価格で宿泊できます。各自でご予約ください。9 月 26 日まで申し込みできます。この日以降は一般の申し込みとなります。

徳島プリンスホテル：徳島駅よりタクシー 5 分、1 泊朝食付・税サービス込み 9240 円、朝食なし・税サービス込み 8190 円シングル 40 室まで可能です。シングル以外も割引で予約できます。大会会場までタクシー 5 分です。

電話 088-624-1111 <http://www.princehotels.co.jp/index.html>

徳島ワシントンホテルプラザ：徳島駅よりタクシー5分、1泊朝食付・税サービス込み 9465円、朝食なし・税サービス込み 8100円、シングル 40室まで可能です。大会会場までタクシー5分です。

電話 088-653-7111 <http://www.washingtonhotel.co.jp/>

ホテルサンルート徳島：徳島駅よりタクシー5分、1泊朝食付税別 6580円、朝食なし税別 5580円シングル 30室まで可能です。大会会場までタクシー5分です。

電話 088-626-0311 <http://www.sunroute.jp/index.html>

- 10月28日については適宜、ご予約ください。

9.関連ホームページ・アドレス

大会に関連する情報を随時更新して提供しています。ご利用ください。

産業教育学会第43回大会案内 <http://monjyu.cue.tokushima-u.ac.jp/san/>

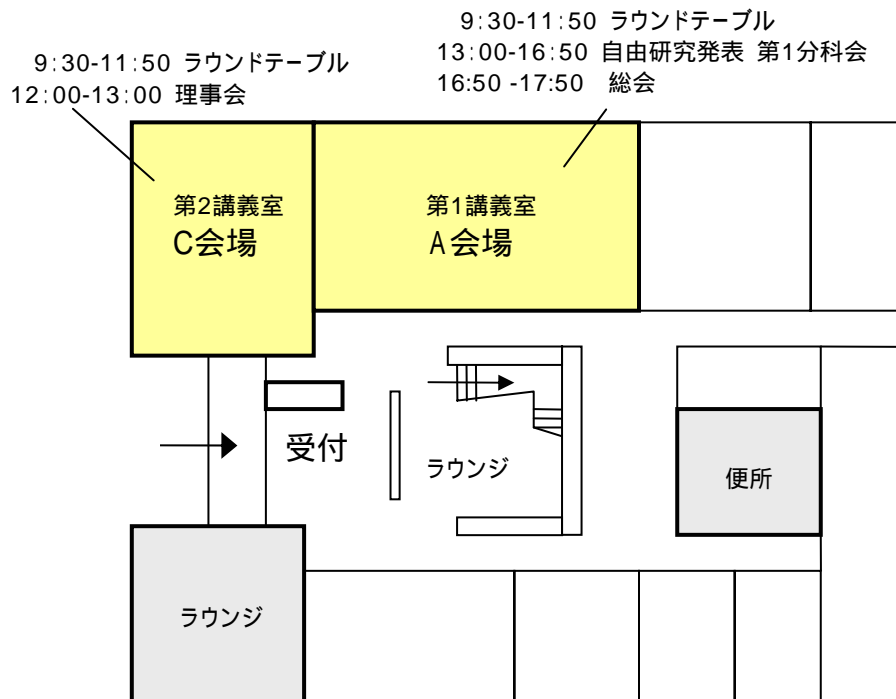
徳島大学大学実践センター <http://www.cue.tokushima-u.ac.jp/>

徳島大学 <http://www.tokushima-u.ac.jp/index.html>

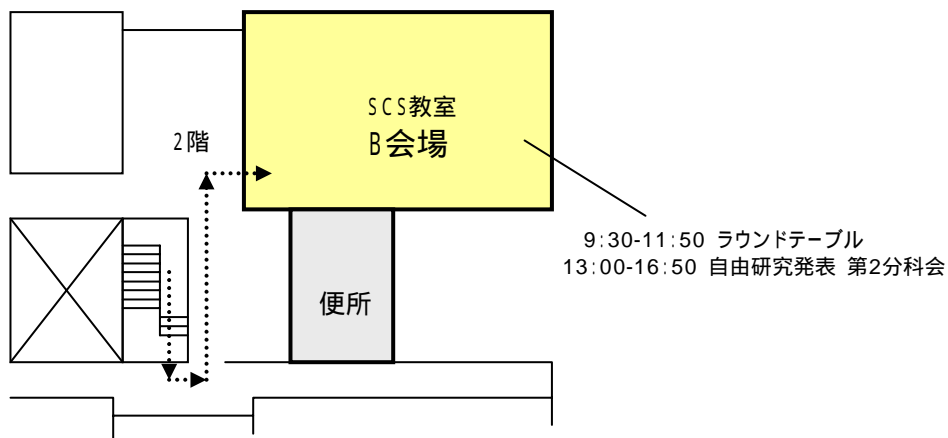
大塚製薬 <http://www.otsuka.co> 大塚国際美術館 <http://www.o-museum.or.jp/>

10.会場マップ

- 大学開放実践センター1階



■ 大学開放実践センター2階



■ 工業会館



大学開放実践センターから徒歩5分
第1日
18:00-19:30 懇親会

第2日
9:00-11:50
シンポジウム

総会会場から懇親会参加者の方はご案内します。

大会プログラム

第1日(10月27日) 9:30 - 11:50 A会場 B会場 C会場

ラウンドテーブル

9:30-11:50 A会場

「職業訓練学」(エルゴナジー)の必要性と可能性 場所:センター1階・第1講義室

提案者 田中萬年(職業能力開発総合大学校)

話題提供者 大串隆吉(東京都立大学) 「社会教育学の立場からの考察」

平沼 高(明治大学) 「経営学の立場からの考察」

三宅章介(東海学園大学) 「職業指導学の立場からの考察」

9:30-11:50 B会場

介護職と看護職をめぐる教育の今日的課題と展望 場所:センター2階・SCS教室

司会者 村本淳子(三重県立看護大学)

話題提供者 森 和夫(徳島大学) 「介護、看護の職業能力と教育プログラム」

渋谷久恵(神奈川県立紅葉ガ丘高等職業技術校)

「ホームヘルパー教育にかかわって」

國分恵子(福井県立看護大学) 「看護教育・保健師教育の実践から」

9:30-11:50 C会場

最近の若者の労働観と生き方を考える 場所:センター1階・第2講義室

司会者 西村美東士(徳島大学)

話題提供者 川田 春夫(コミュニティFM放送局・エフエムびざん勤務)

正木伸一郎(公務員・学遊塾青年ボランティアゼミナール講師)

玉井 伸明(洋風居酒屋「Typhoon」経営)

第1日(10月27日) 12:00 - 13:00 C会場

理事会

場所:センター1階・第2講義室

第1日(10月27日) 13:00 - 16:50 A会場 B会場

自由研究発表

第1分科会 (A会場) 場所:センター1階・第1講義室

第1セッション 座長:夏目達也(東北大学)

13:00-13:20 発表番号 A-101

スウェーデンの職業教育の動向 高橋一夫(東京都立新宿山吹高校)

13:20-13:40 発表番号 A-102

ハバロフスク地方の職業教育再生への兆しーハバロフスクおよびコムソモーリスク・ナ・アムレを中心としてー 水谷邦子(芦屋大学)

13:40-14:00 発表番号 A-103

職業教育の「高等教育化」の諸相 - ドイツの専門大学の事例分析 - 寺田盛紀(名古屋大学)

- 14:00-14:20 発表番号 A-104
ドイツの基礎学力論と職業能力開発 坂野慎二(国立教育政策研究所)
- 14:20-14:40 発表番号 A-105
90年代以降の米国における職業教育訓練政策 谷口雄治(職業能力開発総合大学校)
- 14:40-15:00 発表番号 A-106
百年の歴史から見る韓国の工業教育の発展方向
盧泰天・金永鍾(忠南大学校)・金正植(東京工業大学客員研究員)

第2セッション 座長:大河内信夫(千葉大学)

- 15:10-15:30 発表番号 A-201
手工教育の成立期における経済的契機と教育的契機 - オットー・サロモンの言説を手がかりとして - 横山悦生(名古屋大学)
- 15:30-15:50 発表番号 A-202
谷本 富の新教育思想 - 体験、手工科教育論にかかわって -
森山賢一(常磐大学 人間科学部)
- 15:50-16:10 発表番号 A-203
産業教育振興法制定後の高校職業学科の教科書の発行状況に関する研究
佐藤史人(和歌山大学教育学部)
- 16:10-16:30 発表番号 A-204
技術・家庭科の評価の本質と国政研の「目標に準拠した評価」、その指導要録・内申書の評
定記入方法の問題点 池上正道(立正大学非常勤講師)
- 16:30-16:50 発表番号 A-205
栽培学習の体系化に関する実践的考察 - 小学校における栽培学習の展開をもとに -
千葉雄司・相場博明(慶應義塾幼稚舎)、森山賢一(常磐大学人間科学部)

第2分科会 (B会場) 場所:センター2階・SCS教室

第1セッション 座長:松谷由紀子(神奈川県立川崎高等職業技術校)

- 13:00-13:20 発表番号 B-101
高校工業教育に対する工業に従事している卒業者による評価
- 鹿児島県立鹿児島工業高等学校の事例 -
長谷川雅康(鹿児島大学教育学部)・佐藤史人(和歌山大学教育学部)
- 13:20-13:40 発表番号 B-102
高校-大学の接続と職業体験的学習 福岡哲朗(福岡市立博多工業高等学校)
- 13:40-14:00 発表番号 B-103
新しい医療職の発生と養成教育に関する問題点 救急救命士を中心に -
宮本京子(九州大学医学部附属病院 腫瘍センター)
- 14:00-14:20 発表番号 B-104
ビジネスキャリア制度の設定意図と制度の変化について - ホワイトカラー職務能力評価試
験設定の意味 - 新井吾朗(職業能力開発総合大学校)
- 14:20-14:40 発表番号 B-105
産業教育における教材ソフトウエアの著作権を巡る問題
- 中古ゲームソフトの販売にかかる著作権の検討から -
桜井博行(職業能力開発総合大学校 能力開発研究センター)

第2セッション 座長:永田萬享(福岡教育大学)

15:10-15:30 発表番号 B-201

「企業内教育」という言葉の妥当性をめぐっての一研究 三宅章介(東海学園大学)

15:30-15:50 発表番号 B-202

企業内における研修コースの開発手法

鯉江充治(株式会社 デンソー技研センター 技能研修部)

15:50-16:10 発表番号 B-203

技能五輪データ に反映された職業訓練 - トヨタ工業技術学園の場合 -

蘇 鶴鳴(高千穂大学大学院 経営学研究科)

16:10-16:30 発表番号 B-204

質問紙調査による安全行動規定要因の分析

赤塚 肇・深澤伸幸(鉄道総合技術研究所)

16:30-16:50 発表番号 B-205

職業訓練におけるeラーニング試行 福元 基(九州大学大学院)

第1日(10月27日) 16:50 - 17:50 A会場

総会

場所:センター1階・第1講義室

第1日(10月27日) 18:00 - 19:30

懇親会

場所:工業会館2階・メモリアルホール

第2日(10月28日) 9:30 - 11:50

シンポジウム

場所:工業会館2階・メモリアルホール

ベンチャー企業から見た産業教育の役割と期待

司会者 町井輝久(北海道大学)

シンポジスト

ベンチャー企業経営の立場から 井上武久(株式会社オプトピア)

社内ベンチャー育成の立場から 森本正文(株式会社ヨコタコーポレーション)

地域ベンチャー育成の立場から 吉崎住夫(徳島県産業振興課 新産業支援室)

第2日(10月28日) 13:00 - 15:00

企業内教育施設・工場見学

大塚製薬工場及び能力開発研究所

大塚製薬株式会社・能力開発研究所における人材育成の理念と方針

佐藤哲己(能力開発研究所所長)

ラウンドテーブル企画、シンポジウム講演要旨
企業内教育施設・工場見学の紹介

自由研究発表概要集

ラウンドテーブル

9:30-11:50 A会場

「職業訓練学」(エルゴナジー)の必要性と可能性

提案者 田中萬年(職業能力開発総合大学校)

話題提供者 大串隆吉(東京都立大学)「社会教育学の立場からの考察」

平沼 高(明治大学)「経営学の立場からの考察」

三宅章介(東海学園大学)「職業指導学の立場からの考察」

これまで職業訓練はわずかな教育学研究者から支持され、教育の一部として意味づけられてきた。

しかし、職業訓練の受講者の立場から考えてみると、教育を受けたようには考えられていないようだ。例えば、能開総合大に編入してくる学生さんは、一般の学生や短大の教員とは異なった教育観をもっている。その差異は、編入生が2年間の職業訓練を受講して来た、ということである。つまり新たな「職業訓練観」が育っているのである。このことは恐らく短大の受講者だけではなく、あらゆる職業訓練の受講者に共通しているのではなからうか。

このようなことから、職業訓練の受講者のためにも、受講者が修了して受けた職業訓練に自信と誇りを持てるように、「職業訓練学」の確立が必要と考える。しかし、その確立のためには様々な課題が予想される。

その課題と可能性について関心のある者で議論したいと考える。

9:30-11:50 B会場

介護職と看護職をめぐる教育の今日的課題と展望

司会者 村本淳子(三重県立看護大学)

話題提供者 森 和夫(徳島大学)「介護の職業能力、看護の職業能力と教育プログラム」

渋谷久恵(神奈川県立紅葉ガ丘高等職業技術校)「ホームヘルパー教育にかかわって」

國分恵子(福井県立看護大学)「看護教育・保健師教育の実践から」

今日、看護職の教育が問われている。看護職者が生き生きと働き、未来を描ける教育はどう展開すればよいだろうか。これまでの教育遺産の上に、何を築きあげれば明日の看護が開かれるかを考えてみたい。また、介護職についても制度化と実施が急速に進む一方で、多くの問題を抱えている。両者はかなりの部分で重なり合い、補完し合うにもかかわらず、その検討の上に構築されているという姿が見えていないように思える。このラウンドテーブルではサービス労働の職業教育の今日的課題を整理し、その展望について深めることにしたい。

9:30-11:50 (会場)

最近の若者の労働観と生き方を考える

司会者 西村美東士(徳島大学)

話題提供者 川田 春夫(コミュニティFM放送局・エフエムびざん勤務)

正木伸一郎(公務員・学遊塾青年ボランティアゼミナール講師)

玉井 伸明(洋風居酒屋「Typhoon」経営)

最近の若者の価値観には驚かされることが多い。しかし、彼らを採用した後で、後悔したり、文句をいったりしてもそれは手遅れといえよう。そもそも、若者の労働観に関する我々の認識自体に欠けていたものがあるのではないだろうか。仕事に関することを中心として、現代青少年の意識やライフスタイルを正確に理解したい。そこで、このラウンドテーブルでは徳島でアクティブに活動中の若者たちに「定職に就くということについて」、「仕事の楽しみ」、「自分らしく生きることと仕事をする事との関係」、「自分より若い人たちの仕事ぶりについて思うこと」などについて率直に語っていただくことにした。中学・高校の教師、職業訓練の指導者、企業の関係者の方々、そして大学教師や研究者からも、日頃の思いを自由に出し合いながら進めてみたい。

自由研究発表

第1分科会(B会場)第1セッション

座長 夏目 達也(東北大学)

13:00-13:20 発表番号 A-101

スウェーデンの職業教育の動向

高橋 一夫(東京都立新宿山吹高校)

スウェーデンでは後期中等教育改革の実施が1993年からされ、従来の234年制の職業教育がすべて3年制となった。当初のナショナルプログラムも技術教育の重視から、技術プログラムが追加された。2000年には、職業教育の時間が増加され、2001年には見習い訓練制度の形態についての提案が諮問された。このようなスウェーデンの教育・労働市場の重視と企業のグローバル化への挑戦の現状を報告検討し、わが国の職業教育の在り方を考察する。

13:20-13:40 発表番号A-102

ハバロフスク地方の職業教育再生への兆し

—ハバロフスクおよびコムソモーリスク・ナ・アムールを中心として—
水谷 邦子(芦屋大学)

ソ連崩壊後の10年は、政治、経済、社会面で体制変革の激動期であったが、教育面も例外ではなかった。連邦は地方や学校に権限を移譲したが、市場経済が順調に発達しなかったために財源不足をきたし、地方は中央から見捨てられた状況となった。1999年、2000年の現地調査をもとに、日本と縁の深いハバロフスク地方における職業教育の状況を報告する。

13:40-14:00 発表番号A-103

職業教育の「高等教育化」の諸相

- ドイツの専門大学の事例分析 -
寺田 盛紀(名古屋大学)

本発表は、世界的に進行する中等職業教育と高等教育の接続強化の職業教育学の意味合いを探るために、ドイツの専門大学(Fachhochschule)の展開、とくに1990年代以降試みられている「デュアル学修課程」をめぐる議論、実態を明らかにする。方法的には関連する二次資料を整理しつつ、若干の典型事例のヒヤリング調査(得た資料)によって補足、焦点化し、分析するというアプローチとなる。職業教育の概念変容(拡大)に注目したい。

14:00-14:20 発表番号A-104

ドイツの基礎学力論と職業能力開発

坂野 慎二(国立教育政策研究所)

ドイツにおける現在の教育論争点の1つに基礎学力問題がある。その起点は、国際学力調査の結果が良くなかったことに起因している。教育サイドから示された職業能力開発に関連して提案された点は次の通り。(1)生涯学習におけるフォーマル及びインフォーマルな学習。(2)自己責任の引き受け。(3)大学教育と職業訓練の乗り入れと大卒者数の増加。(4)学校中退者・職業訓練放棄者数の減少。(5)移民の教育と職業能力開発。

14:20-14:40 発表番号A-105

90年代以降の米国における職業教育訓練政策

谷口 雄治(職業能力開発総合大学校)

米国では、70年代から80年代後半にかけての長期にわたる経済低迷を背景として、多数の企業が外部労働市場による雇用関係に変えていったといわれる。そこで、労働市場政策の観点から米国の職業教育訓練政策について、クリントン政権以降の約10年を概観し、National Skill Standards Act および Workforce Investment Act 等による施策にみられる特徴と意味を考察する。

14:40-15:00 発表番号A-106

百年の歴史から見る韓国の工業教育の発展方向

盧泰天・金永鍾(忠南大学校)・金正植(東京工業大学客員研究員)

百年の歴史から見る韓国の工業教育の歴史的な背景と発展過程そして経済発展と共に工業教育が成長し社会に及ぼした影響を明らかにし、21世紀に迎え100年前のの原点に戻ってこれからの知識基盤社会に対処するための新しくスタートしなければならない転換期にこれからの発展方向について示す。

第1分科会(B会場)第2セッション

座長 大河内 信夫(千葉大学)

15:10-15:30 発表番号A-201

手工教育の成立期における経済的契機と教育的契機

- オットー・サロモンの言説を手がかりとして -

横山 悦生(名古屋大学)

普通教育としての手工教育は、19世紀後半に北欧において成立したとされてきた。本発表では、スウェーデンのオットー・サロモンの果たした役割に注目し、手工教育の成立過程における経済的契機と教育的契機について、オットー・サロモンの言説を手がかりに考察する。

15:30-15:50 発表番号A-202

谷本 富の新教育思想

- 体験、手工科教育論にかかわって -
森山 賢一(常磐大学 人間科学部)

本研究は明治 30 年代の樋口勘次郎の活動主義を受けて、日露戦争後の我が国教育界における新教育思想に大きな影響を及ぼした谷本富の新教育について体験、手工科教育論に焦点をあてて考察、吟味したものである。この時期の谷本の新教育思想を知る手がかりとしては『新教育講義』(明治 39 年)および、『系統的新教育綱要』(明治 40 年)をあげることができるがこれらの著作を中心に論じることとするが、特にその当時の我が国の歴史的背景と彼の体験、手工科教育論の関連について考えてみたい。

15:50-16:10 発表番号A-203

産業教育振興法制定後の 高校職業学科の教科書の発行状況に関する研究

佐藤 史人(和歌山大学教育学部)

本研究は、高校職業学科教科書について、教科書会社の編纂・発行の実態と教科書検定の実施状況を分析する事によって、産業教育振興法がねらいとした産業教育の教科用図書に関する措置の具体的な内容とその意義を解明することを目的とする。職業学科の教科書は多種多様なものが必要とされる反面、個々の需要数は多くはなく、戦後の検定制の下で困難に陥っていた新教科書の編纂・発行は産振法制定によって充実・促進させられた。

16:10-16:30 発表番号A-204

技術・家庭科の評価の本質と国政研の「目標に準拠した評価」、 その指導要録・内申書の評定記入方法の問題点

池上 正道(立正大学非常勤講師)

2002 年 4 月から、中学校の教育現場では評価問題で深刻な事態が進行している。教課審答申「児童生徒の学習と教育課程の実施状況の評価の在り方について」に基づき、これまでの「相対評価」をいわゆる「絶対評価」にする指導が強力になされている。国政研の「参考資料」で教育現場は大混乱に陥っている。特に「技術・家庭科」という教科の本質から見て国政研の「絶対評価」を批判し、現場教師の対応もふまえ問題点を明らかにしたい。

16:30-16:50 発表番号A-205

栽培学習の体系化に関する実践的考察

- 小学校における栽培学習の展開をもとに -

千葉雄司・相場博明(慶應義塾幼稚舎)、森山賢一(常磐大学人間科学部)

本研究は小学校における栽培学習の体系化について実践をもとに考察したものである。栽培は、小学校の理科、生活科、総合的な学習の時間、クラブ活動など多くの授業や活動において実施されているが、断片的内容となったり、重複が多かったり学習効果が上がらなかったりすることが指摘されている。

そこで本報では学校教育において栽培学習が充実したものとなるために、カリキュラムと教育内容を中心に吟味したものである。

第2分科会(B会場)第1セッション

座長 松谷由紀子(神奈川県立川崎高等職業技術校)

13:00-13:20 発表番号 B-101

高校工業教育に対する工業に従事している卒業者による評価

- 鹿児島県立鹿児島工業高等学校の事例 -

長谷川雅康(鹿児島大学教育学部)、佐藤史人(和歌山大学教育学部)

本研究では高校工業学科を卒業して産業界で工業技術に関わる人々が、高校工業学科で受けた工業教科の内容をどのように評価し、その影響や今後の工業教育をどう考えているかを追跡調査している。これまで4校調査した中で、標記工高の事例を報告する。全般的には、専門科目で学ぶ実際の技術的知識と理論の基礎の評価が高い。学科による違いが相当ある。工業教育と就職先の仕事との接続関係に分野ごとの相当な粗密差が存在している。

13:20-13:40 発表番号 B-102

高校-大学の接続と職業体験的学習

福岡 哲朗(福岡市立博多工業高等学校)

高校教育と大学教育の接続のあり方を考え直す動きが高まっている。しかしながら、先行研究において、高校-大学両段階で多様な期待を込めて実施されている職業体験的学習についての高大接続の視点や、高大接続に向けての展望について光が当てられていない。

そこで、本研究ではインターンシップの全国実態調査結果の検討により、発達段階に応じたキャリア教育の視座から高校-大学の接続およびそのための連携について考察する。

13:40-14:00 発表番号 B-103

新しい医療職の発生と養成教育に関する問題点

救急救命士を中心に－

宮本京子(九州大学医学部附属病院 腫瘍センター)

医療の発達と共に、近年救急救命士や臨床工学士など国家資格としての新しい医療職が生まれてきている。これら医療職の発生には、医療の専門化によるものと社会的ニーズによるものの2つのパターンがあると考えられる。この中で、社会的ニーズにより発生した救急救命士の発生とその養成課程について、審議会資料やインタビュー調査等から検討した。その結果、救急救命士の業務やその養成課程には、問題点が見られたので報告する。

14:00-14:20 発表番号 B-104

ビジネスキャリア制度の設定意図と制度の変化について

- ホワイトカラー職務能力評価試験設定の意味 -

新井吾朗(職業能力開発総合大学校)

それぞれの資格には、設定の目的がある。近年、労働市場整備の一貫として、資格には職業能力を適正に評価する機能が期待されている。こうした期待は、それぞれの資格が設定される際の目的や資格の認定方法に、どのように影響するのだろうか。この点について、本報告では職業能力評価制度として設定されているビジネスキャリア制度を検討する。制度発足時と今年度行われた制度の改善時に行われた議論から、制度に対する期待の変化とそれに伴う制度改善の意味を考察する。

14:20-14:40 発表番号 B-105

産業教育における教材ソフトウェアの著作権を巡る問題

- 中古ゲームソフトの販売にかかる著作権の検討から -

桜井 博行(職業能力開発総合大学校 能力開発研究センター)

著作権法26条のゲーム・ソフトへの適用の妥当性についての論議が随所でなされており、これについて一定の整理が必要になった。関係する判例及び判例評釈の参照と論点整理を行い26条の解釈を検討し、ゲームソフトへの26条の適用は妥当であるが、これによって認められる頒布権は消尽するとの解釈が適当であろうとの見解に収束した。

第2分科会(B会場)第2セッション

座長 永田萬享(福岡教育大学)

15:10-15:30 発表番号 B-201

「企業内教育」という言葉の妥当性をめぐっての一研究

三宅章介(東海学園大学)

「企業内教育」の分野においては、企業内教育、企業内教育訓練、企業内研修、職場内研修、職場内教育訓練、能力開発、人材育成など、様々な言葉が用いられている。また、最近では、「自己啓発」の重要性が論議されているが、果たしてこの言葉は科学的な用語であるのだろうか。同じ言葉でも、使用法が異なると現象を正確に伝えることが困難になる。本研究では、「企業内教育」をめぐる言葉についての体系化を試みる。

15:30-15:50 発表番号 B-202

企業内における研修コースの開発手法

鯉江 充治(株式会社 デンソー技研センター 技能研修部)

生産設備の製作・保全に携わる技能者の育成を支援する研修の開発手法について紹介する。この手法は、「職場に必要な技能の抽出」、「全社標準としての必要技能一覧の作成」、「研修要素の抽出」、「必要な研修コースの体系化」を基本的なステップとしている。また、これらの資料をイントラネット上にて公開し、職場の変化に追従した研修コース開発ができるようにした“しくみ”も紹介します。

15:50-16:10 発表番号 B-203

技能五輪データ に反映された職業訓練

- トヨタ工業技術学園の場合 -

蘇 鶴鳴(高千穂大学大学院 経営学研究科)

若干の(できるかぎり、同業種の)他社のデータとトヨタ工業技術学園のデータと比較し、分析することによって、どのぐらいの差があるかを明らかにしてみたい。それを基づいて、「なぜ」と「どうする」について、トヨタ工業技術学園のカリキュラムを取り上げ、試論をしてみたい。

16:10-16:30 発表番号 B-204

質問紙調査による安全行動規定要因の分析

赤塚 肇・深澤伸幸(鉄道総合技術研究所)

産業災害や労働災害を防止するためには、作業員自身が安全な行動をとることが必要不可欠である。職務行動あるいは動機づけに影響を及ぼす要因として、職務満足ほか、いくつかの要素が考えられる。また、安全行動については安全意識が行動の規定要因と考えられている。具体的な産業として鉄道を取り上げ、鉄道運転士を対象とした質問紙調査を行った。いずれの要素も安全行動の励行の程度と関連を有していることが示された。

16:30-16:50 発表番号 B-205

職業訓練における e ラーニング試行

福元 基(九州大学大学院)

このため、政府は、「ものづくり基盤整備基本計画」(2000)を策定し、21世紀の製造現場を支える人材の育成に着手した。一方、昨今の急速な IT 技術の進展に伴い、企業がこれまで以上に発展していくためには、IT 化に対応できる基礎的な能力や実践的な IT 活用能力が求められてきている。そこで、国(雇用・能力開発機構)は求職者、在職者を問わずあまねく幅広い労働者を対象に IT 学習支援事業を展開してきた。

昨年は延べ 106 万人の労働者を対象に IT 教育訓練を実施した。

本稿では、この事業の一環として更に多くの労働者が自主的に IT 化に対応した職業能力の開発に取り組むため、e-learning の試行を行ったので、その結果について報告する。

シンポジウム

第2日(10月28日) 9:30 - 11:50

ベンチャー企業から見た産業教育の役割と期待

司会者 町井 輝久(北海道大学)

シンポジスト

ベンチャー企業経営の立場から 井上 武久(株式会社オプトピア)

社内ベンチャー育成の立場から 森本 正文(株式会社ヨコタコーポレーション)

地域ベンチャー育成の立場から 吉崎 住夫(徳島県産業振興課 新産業支援室)

ベンチャーに望まれる人材像について

井上 武久(株式会社オプトピア)

ベンチャーの経営者から見た望まれる人材について、これまでの経営者としての経験を踏まえ整理して明らかにしたい。ベンチャーとはニュービジネスにチャレンジする者をいい、既成概念にとらわれない革新的なスピード・能力・方法でリスクを恐れずアイデアを出しそれを実現していく必要がある。そのために、特に重要と思われる人材の条件を具体的に列挙して説明する。

1. ノウハウ(知識や技術)だけではなく、知恵を使える人材

ノウハウは従来の教育でいろいろ教えているが、知恵を使わなければ新しい発想や創造はでてこない。ビジネスには学校教育とは異なり、画一的な答えはなく、いかに知恵を使い条件にマッチした最適な答えを出すかが重要である。

2. プラス思考とへこたれない実行力をもった人材

「失敗は成功の母」というが、失敗から得られるものは多く、逆にそれをよかったとプラス思考で解釈し、次につなげて行く実行力が必要である。特に最近は挫折や困難を経験することが少なくなったため、それに負けない精神力と実行力が必要とされる。

3. 常識の価値判断だけではなく、戦略的な価値判断ができる人材

常識的な価値判断は普通のビジネスにおいても非常に重要であるが、商品や市場(マーケット)を創造していくには、革新的な発想と損して得をとるような戦略的な価値判断が必要である。

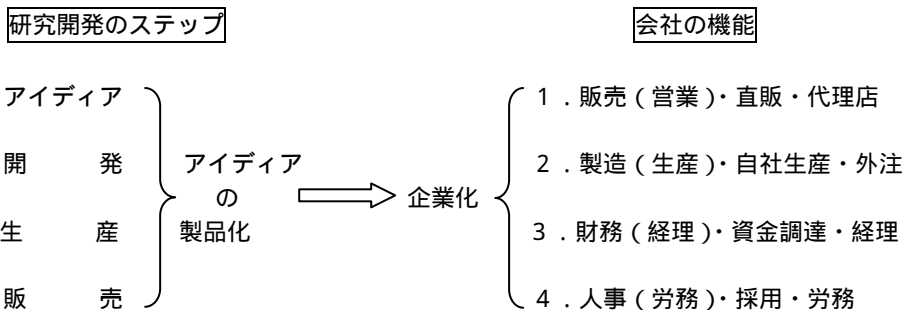
ベンチャー企業にとってすべてが上記のような人材である必要はないが、少なくともキーマンになる人材には必要な条件であり、そのような人材は単なる「人材」ではなく、社会に貢献し益をもたらす「人財」になると確信している。

社内ベンチャー育成の立場から

森本 正文 (株式会社ヨコタコーポレーション)

はじめに

ベンチャー企業は組織的・機能的に成熟されていない会社と言える。一方会社は規模に関係なく基本的な企業機能を必要とする。産業教育においてこの点の理解が必要である。図は研究開発と企業機能の概要を示したものである。企業の成長と共に、組織化・機能化の充実を計る必要がある。設立初期はこの点の充実が難しい。一方、社内ベンチャーの場合には既存の組織・機能を生かことができるという利点がある。これらをふまえて幾つかの提言をしたい。



1) ベンチャーを支援する上での課題とその工夫

ベンチャー企業の成長における課題は、会社機能の欠如である。新産業創出時代においてベンチャーと既存企業の相互協力体制の構築が重要と言える。

2) これからの産業教育に求められるもの

企業人として求められるものは、専門能力とトータルマネジメント能力と世界観である。学生時代から共同研究に参加することも重要になる。新製品の開発、ベンチャー(社内)の育成にも経営計画・総合的判断が要求される。

3) 人材の在り方・育て方

社内ベンチャーにおいて、起案者(製品開発者)とスタッフ・既存組織の中で異質・新事業の位置付けなど多くの課題を持っている。これを克服するには、社内ベンチャーの全員が一体感を持ち経営計画を作成できるベンチャー社員を養成する必要がある。

4) ベンチャー展開と地域活性化の在り方

IT時代における地域感の世界観に変わる必要がある。地域社会の変革に実践教育として携わることも大切と考えられる。

産業教育においては、高等教育機関の高度な能力と若者のエネルギーを時代に先行する実践研究を通じて、多くの卒業者が常に社会の変化(進化)の牽引車となることを期待したい。

地域ベンチャー育成の立場から

吉崎住夫 氏(徳島県産業振興課 新産業支援室)

長引く平成不況から日本経済を脱出させるには、新規産業を育成することが必要であるとの認識の下、これまで国や都道府県は積極的にベンチャー企業支援のための施策を進めてきた。この中の一つに、平成 11 年に施行された新事業創出促進法に基づく施策がある。

経済の新陳代謝を示す企業の開業率を見ると、米国と比較しても著しく低い水準にあり、さらに、長期間にわたり一貫して低下してきた。こうした背景には、新たな事業を始めるに際して、資金調達や人材の発掘・育成が困難であること、経営・販売等のノウハウ・情報が不足していること等の課題が存在していることがあげられる。我が国の人材や技術等の経営資源の蓄積が、諸外国に比べて一定の水準にあるにもかかわらず、それらが有効に活用されず、新たな事業の創出にきちんと結びついてはいないという構造的な課題であった。こうした課題を克服し、創業を初めとした新たな事業の創出を円滑なものとするため、抜本的で総合的な支援策が望まれるに至り、この法律が制定されたのである。

本県では国の施策に呼応し、平成 11 年度に、「アイデア・企画段階から生産・販売まで」あるいは「創業期から成長期、革新期に至る企業の成長段階」に応じて、適時適切な支援事業を行うための総合的な新事業創出支援体制（地域プラットフォーム）を構築している。（財）とくしま産業振興機構をこの地域プラットフォームの中核となる支援機関、徳島大学や阿南工業高校等専門学校、県立工業技術センター、（株）徳島健康科学総合センター、（社）徳島ニュービジネス協議会等をその他の支援機関として位置づけ、お互いに連携を取りながら中小企業のための各種支援策を実施しているところである。

支援策の中には、起業インターンシップ事業や起業家セミナーなど、ベンチャー育成に向けての人材面での施策も盛り込まれており、シンポジウムでは支援体制全般の説明と併せて具体的に説明させていただくことにしたい。

企業内教育施設・工場見学

第2日(10月28日) 13:00 - 15:00

大塚製薬工場及び能力開発研究所

〒771-0132 徳島県徳島市川内町平石夷野 224-18

大塚製薬株式会社・能力開発研究所における

人材育成の理念と方針

佐藤 哲己(能力開発研究所所長)

21世紀はあらゆる面において従来型のモデルが通用しない社会になるといわれています。大塚製薬において、変革・創造型の自立的人材を育成することを経営の最重要課題のひとつに位置付けているゆえんはそこにあります。

大塚製薬は、固定概念の打破及び発想の逆転ということを強く意識し、「独創性」という点に価値を置いて企業理念「Otsuka people creating new products for better health worldwide」の実現に力を入れています。互いに異なる文化習慣言語をもつ世界中のさまざまな Otsuka people が、世界の人々によりよい健康を提供するという共通理念のもと各国各地域で活動しています。つまり多種多様な価値観・考えが一つの理念のもとに集い、互いに他の存在を認めつつ、一人では到底成し遂げ得ないようなことを他のチームや人との分業・協働をもって成し遂げようという世界がここにあるといえます。その基本になるのが「自立した個人」の確立であると私たちは考えています。

「自分はこうしたい、ああでありたい」と思うことは人の本能的欲求であり、そのために必要な能力を開発向上し続けることは大事なことです。なぜなら個人にとって企業とは自分の夢、希望を具体化させる自己実現の場であり、一方、企業にとって個人の知識・能力は財産(知的資本)であるからです。そしてこのような人本来の欲求こそが独創的なアイデアの源泉だと私たちは思っています。

能力開発研究所は、日々の多忙な業務の遂行で時として忘れてたり自己抑制しがちな人本来の欲求を刺激し、自己実現に必要な能力を開発向上させたいと願う人たちを支援するための各種研修プログラムを実行しています。企業価値の向上とはつまり課題解決そのものであるといえます。そして継続的な企業価値の向上を保証するうえでもっとも重要なものが、人材そのものです。

能力開発研究所は日々さまざまな課題の解決に努力している Otsuka people を支援する場でありたいと願っています。

後援：徳島県、徳島県中小企業団体中央会
徳島県商工会議所連合会、徳島県商工会連合会



実行委員会

実行委員長・プログラム及び総括 森 和夫(徳島大学)
懇親会・受付担当 西村美東士(徳島大学)
宿泊・飲食・移動担当 塩田計英(市場町商工会)
会場・運営担当 川田春夫(エフエムびざん)
サポートチーム(徳島大学総合科学部学生)
吉廣綾子、岡本直子、西本美佳(受付・アメニティ担当)
大石哲生、高楠悟史(会場・セッティング担当)

日本産業教育学会 第43回大会プログラム・研究発表概要集

発行：平成14年9月14日
日本産業教育学会第43回大会実行委員会
徳島大学 大学開放実践センター内
770-8502 徳島県徳島市南常三島1-1
電話・FAX：088-656-7283